

宮崎県社会福祉審議会 議事概要

1 日 時

令和8年2月17日（火）午後1時20分から午後2時40分まで

2 場 所

県防災庁舎2階プレスルーム

3 出席者

井上あけみ委員、長田一郎委員、甲斐恵子委員、木佐貫辰生委員、久保敦子委員、小牧斎委員、塩満克也委員、篠澤まゆみ委員、末永恭委員、竹中隆志委員、谷山伸介委員、永田照明委員、野津原勝委員、花野典子委員、福田恵美子委員、横山幸子委員、渡邊浩之委員

4 議 事

- (1) 宮崎県地域福祉支援計画（第5期）の策定について
- (2) 民生委員・児童委員の一斉改選について
- (3) 令和8年度当初予算案及び令和7年度2月補正予算案について

5 要 旨

資料に基づき事務局より説明後、質疑応答・意見交換を行った。
概要は以下のとおり。

6 主な質疑内容等

- (1) 宮崎県地域福祉支援計画（第5期）の策定について

委 員	知的障害者の親亡き後の問題が重くのしかかっている。千葉県のグループホームで起こった事件もあり不安。新規参入の事業者が増える中で、県はどのように運営や支援の質を確保し、実地指導を行っているのか。
事務局	事業所立ち上げ時には国の基準に適合するか審査し、その後も指導監査・援護課による定期的な監査や障がい福祉課による集団指導を行っている。質の問題については課題として認識している。
委 員	書類上はよくても実際の現場がそうでないことが多い。抜き打ち検査などはできないのか。
事務局	虐待等の通報があった場合は調査を行うが、何も無い状態で抜き打ち調査は行っていない。

委員	認知症の家族を持つ方の支援をしているが、在宅介護は非常に大変で徘徊なども起きている。自治会活動が弱まり、地域の結びつきが薄くなっている中で、高齢者を地域で見えていくことについて、県はどのように考えているか。
事務局	徘徊については、衣服にタグを付けたり、メールで連絡が行く仕組み、道に迷っている方への声掛けの啓発など、地域全体で見守る仕組みづくりを市町村や医療・福祉機関と連携して作っていききたいと考えている。

(2) 民生委員・児童委員の一斉改選について

委員	今回、充足率が90%を初めて下回り大変厳しい状況。3年後の令和10年の一斉改選に向けて、「担い手確保対策特別委員会」を立ち上げる。県や社協と連携して充足率を高めていきたい。また、来年が制度創設110周年で、5月12日が民生委員の日であるが、天皇皇后両陛下御臨席のもとガーデンシアターで式典が開催される。周知向上に努めていくので、皆様方のさらなる御協力をお願いしたい。
委員	民生委員の定数の考え方を伺いたい。人口が減少している中で、定数は1, 2人しか減っていない。その定数はどのように考えられているのか。数だけでなく、高齢化など地域の実情も考慮して調整されているのか。
事務局	定数は県の規則によって市町村ごとに定められている。改選時に市町村に対して事前確認を行い、必要があれば規則を改正する。定数増の理由は、マンション建設による人口増や地区の整備など。定数減の理由は、人口減による地区の統合や、欠員地区でも問題なく活動が行えていた場合の統合などがある。
委員	例えば人口何人に対して1人、といったような目安はあるのか。
事務局	ベースになる県の基準では、人口10万以上の市については160から360世帯に1人、人口10万未満の市は100から280世帯に1人、といった基準に基づいている。

(3) 令和8年度当初予算案及び令和7年度2月補正予算案について

委員	こどもの貧困対策について、フードバンクの連携や食材の提供状況、アウトリーチ的な取組について教えていただきたい。
事務局	県内3箇所のフードバンクが積極的に活動しており、令和7年度9月補正予算でも食材提供の緊急支援を行った。市町村で活動するフードバンクやこども食堂に対して、連携しながら広域的な支援を行っている。
委員	米の価格高騰で寄付量が少なくなっていると聞かすが、現状はどうか。
事務局	年度途中までは物価高騰の影響で寄付が減少していたが、補正予算による緊急支援やJA等各団体からの寄付もあり、現時点では十分運用できていると伺っている。
委員	婚活事業のマッチング率はどうか。
事務局	フェリー婚活のマッチング率は約7割弱と非常に高い。1泊2日のツアーでお互いを知る時間が長く、事前の身だしなみセミナー等も効果を上げている。